平成30年上半期
火災・救急・救助統計

問い合わせ　火災　予防課　☎254-0356　FAX256-7755
救急　消防救急課　☎254-1600　救助　消防救急課　☎254-1601　いずれも　FAX254-1607

火災 出火原因１位は「たき火」

上半期に発生した火災は73件で、昨年同時期と比較すると１件増加しましたが、建物火災は１件減少しました。出火原因の１位は「たき火」(約29%)でした。たき火を行った際は後始末をきちんと行い、風の強いときには自粛しましょう。

また、「たばこ」が原因の住宅火災が５件(住宅火災の約33%)ありました。寝たばこは絶対にしないなど、火の取り扱いに十分注意しましょう。

火災概況

▲は減を示す

区　分		平成30年上半期	平成29年上半期	比　較
火災件数合計(件)		73	72	1
火災種別(件)	建物火災	31	32	▲1
	うち住宅火災	15	17	▲2
	林野火災	3	7	▲4
	車両火災	3	5	▲2
	その他の火災	36	28	8
死　者(人)		1	0	1
負傷者(人)		5	8	▲3

出火原因

単位は件、▲は減を示す

出火原因	平成30年上半期		平成29年上半期		比　較	
	全体	住宅	全体	住宅	全体	住宅
たばこ	7	5	4	3	3	2
こんろ	4	4	6	4	▲2	0
炉	1	0	1	0	0	0
焼却炉	0	0	1	0	▲1	0
ストーブ	1	1	2	2	▲1	▲1
ボイラー	1	1	0	0	1	1
排気管	1	0	1	0	0	0
電気装置	2	0	0	0	2	0
電気機器	1	0	4	4	▲3	▲4
電灯・電話等の配線	4	0	0	0	4	0
配線器具	2	0	1	0	1	0
火あそび	2	0	0	0	2	0
マッチ・ライター	1	0	0	0	1	0
たき火	20	1	19	0	1	1
溶接機・切断機	2	0	0	0	2	0
灯火	1	0	0	0	1	0
火入れ	2	1	6	1	▲4	0
放火	1	0	1	1	0	▲1
放火の疑い	7	0	4	2	3	▲2
取灰	0	0	1	0	▲1	0
その他	4	0	8	0	▲4	0
不明・調査中	9	2	13	0	▲4	2
合　計	73	15	72	17	1	▲2

救急 軽症患者が全体の約半数

上半期に発生した救急出動件数は7,918件でした。事故種別では急病が5,082件と最も多く、全体の約64%を占め、次いで一般負傷が1,159件(約15%)、交通事故が619件(約８%)でした。昨年同時期と比較すると、出動件数は655件増加し、搬送人員は555人増加しました。

また、搬送人員全体の約52%(3,741人)が軽症患者でした。軽いけがや病気(擦り傷、歯痛、風邪など)の場合は、自家用車やタクシーなどでかかりつけの病院へ行きましょう。本当に救急車を必要としている貴い命を救うため、救急車の適正利用にご協力をお願いします。

救急概況

区　分		平成30年上半期	平成29年上半期	比　較
出動件数(件)		7,918	7,263	655
事故種別(件)	急　病	5,082	4,587	495
	一　般	1,159	1,122	37
	交通事故	619	590	29
	その他	1,058	964	94
搬送人員(人)		7,227	6,672	555

救助 建物等による事故が増加

上半期の救助件数は67件でした。そのうち、交通事故が34件で全体の約51%を占め、次いで建物等による事故が15件、それら以外の事故が18件でした。建物等による事故が近年増加傾向にありますが、その多くは、高齢者が建物内に居るが外からの呼び掛けに応答がない、といった内容でした。

気温も上昇する季節です。建物内での熱中症などに気を付け、行楽シーズンの長距離運転や海、川でのレジャーの際は、交通事故や水の事故に注意しましょう。

救助概況

▲は減を示す

区　分		平成30年上半期	平成29年上半期	比　較
救助件数合計(件)		67	68	▲1
救助種別(件)	交通事故	34	37	▲3
	水難事故	1	2	▲1
	機械による事故	2	1	1
	建物等による事故	15	16	▲1
	上記以外の事故	15	12	3